

決算書の見方



令和6年4月18日（木）

ひょうご税理士法人

会社の事業を永続的に存続させるためには

① 事業承継

② 人・設備投資・新規市場・事業・製品の開発

③ 長期的に安定していること

④ 役員退職金

例) 退職金**1億円** & 借入金**1億円**の返済
25年間 毎年800万円の資金確保が必要
→毎年**1200万円**の経常利益の確保

・ $2\text{億円} \div 25\text{年間} = 800\text{万円}$
・ $800\text{万円} \div (1 - 0.3) \doteq 1200\text{万円}$
実効税率 年間経常利益



純資産(自己資本)の内部留保は不可欠

本日覚えて帰っていただきたい数字 5つ

- ① **自己資本比率** 目標20% 理想40%
- ② **CCC (キャッシュ・コンバージョン・サイクル)**
月商3カ月分の運転資金を確保する
- ③ **損益分岐点比率** 目標90%未満 理想80%未満
- ④ **売上高経常利益率** 目標10% 理想20%
- ⑤ **債務償還年数** 目標10年以内

① 自己資本比率 (%)

$$= \left[\frac{\text{自己資本 (純資産)}}{\text{総資産}} \times 100 \right]$$

(単位：円)

全財産のうち「返さなくてもいい」割合。
⇒ ここが高ければ第一印象は良い会社。

目標数値 20%
理想数値 40%以上

【流動資産】	260,000	【流動負債】	100,000
現預金	150,000	買掛金	80,000
売掛金	100,000	短期借入金	20,000
商品	10,000	【固定負債】	300,000
【固定資産】	640,000	長期借入金	300,000
建物	120,000	【負債合計】	400,000
機械	200,000	資本金	10,000
土地	300,000	利益剰余金	490,000
役員貸付金	20,000	【純資産合計】	500,000
【資産合計】	900,000	【負債・純資産合計】	900,000

※業界平均・・・【全産業29.1%】（中小企業庁統計）

【製造業37.8%】【卸売業30.7%】【建設業17.1%】【介護サービス事業40.5%】

② CCC(キャッシュ・コンバージョン・サイクル)

→ 仕入代金の支払いから売上代金の回収までの差額日数

『運転資金』は決算書から見える！

【売上債権回転日数】 $\frac{\text{売上債権 (3000万)}}{\text{一日あたり売上 (328,767円)}} = \text{① [91] 日}$	【仕入債務回転日数】 $\frac{\text{仕入債務 (2000万)}}{\text{一日あたり売上原価 (273,973円)}} = \text{③ [73] 日}$
【棚卸資産回転日数】 $\frac{\text{棚卸資産 (3000万)}}{\text{一日あたり売上原価 (328,767円)}} = \text{② [91] 日}$	差額 ① + ② - ③ = ④ [109] 日

- 売上債権・・・未回収の売上代金
→ 売掛金、受取手形
- 仕入債務・・・未払いの仕入、外注代金
→ 買掛金、支払手形
- 棚卸資産・・・在庫
→ 商品、製品、仕掛品、原材料etc

一日あたり売上高

$$\frac{(1.2\text{億})}{365} = (328,767)\text{円}$$

一日あたり売上原価

$$\frac{(1\text{億})}{365} = (273,973)\text{円}$$

必要運転資金

$$\text{④} \times \text{一日あたり売上} = (35,835,623)\text{円}$$

③ 損益分岐点比率

未来会計について

損益計算書（制度会計）

（単位：千円）

科目	金額	
売上高	1,000	
売上原価	原価（材料費）	200
	原価（人件費）	200
	原価（諸経費）	200
	計	600
売上総利益	400	
販管費	345	
営業利益	55	
営業外費用	5	
経常利益	50	
税引前当期純利益		
法人税等		
税引後当期純利益		

損益計算書（未来会計）

（単位：千円）

科目	金額	
売上高	1,000	
変動費	原価（材料費） 200	
粗利益	800	
固定費	原価（人件費）	200
	原価（諸経費）	200
	計	400
売上総利益	400	
固定費	販管費	345
	営業利益	55
固定費	営業外費用	5
	経常利益	50
税引前当期純利益		
法人税等		
税引後当期純利益		

③ 損益分岐点比率

何が変動費で、何が固定費？

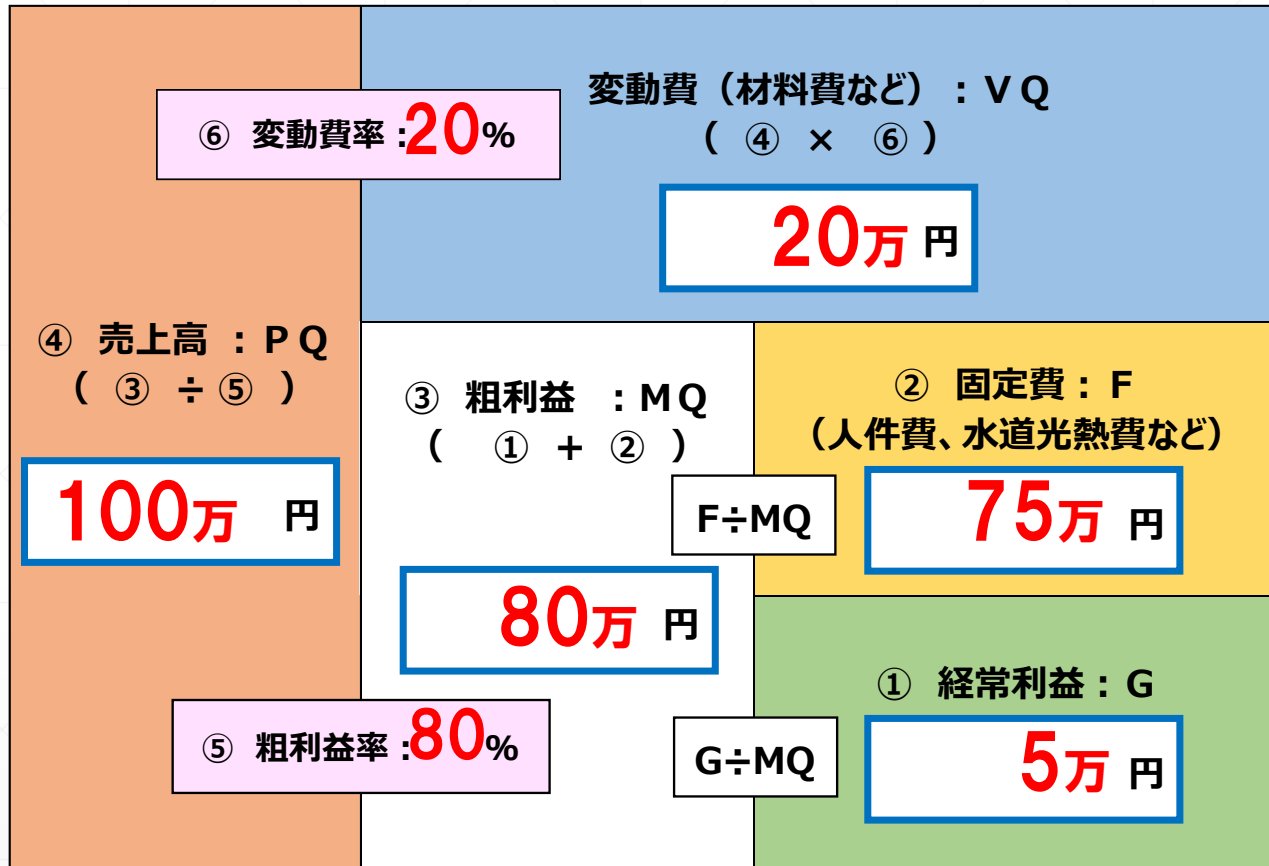
	勘定科目	変動費	固定費	勘定科目	変動費	固定費
例	材料費	○	×	リース料	×	○
	電力料	×	×	修繕費	×	○
	ガス料	×	×	賃借料	×	○
	外注加工費	○	×	保険料	×	○
	給与手当	×	○	警備料	×	○
	時間外給与	×	○	旅費交通費	×	○
	雑給	×	○	通信費	×	○
	賞与手当	×	○	会議費	×	○
	法定福利費	×	○	研修費	×	○
	福利厚生費	×	○	広告宣伝費	×	○
	車両費	×	○	租税公課	×	○
	消耗品費	×	○	寄付金	×	○
	慶弔費	×	○	諸会費	×	○
	接待交際費	×	○	開発費	×	○
	新聞図書費	×	○	支払手数料	×	○
	運賃	×	○	雑費	×	×
	減価償却費	×	○	販売手数料	○	×

経費の種類

- ◆ 変動費：売上に応じて増減する費用（用具仕入、材料費、外注費など）
- ◆ 固定費：売上に関係なく発生する費用（人件費、水道光熱費、家賃など）

③ 損益分岐点比率

現在の売上高が損益分岐点売上高からどれだけ離れているか。低ければ低いほどよい。



$$MQ = F + G$$

$$\frac{MQ}{MQ} = \frac{F}{MQ} + \frac{G}{MQ}$$

↓
↓

	損益分岐点比率	経営安全率
目標値	90%	10%
理想値	80%	20%

売上高経常計上利益率 (p.15)

目標値 = 粗利益率 × 経営安全率 10%

理想値 = 粗利益率 × 経営安全率 20%

★ 損益分岐点比率 × 経営安全率 (余裕率) = 100%

$$= \frac{75万}{80万} + \frac{5万}{80万} = 100\%$$

$$= 93.75\% + 6.25\% = 100\%$$

④ 売上高経常利益率

$$= \left[\frac{\text{経常利益}}{\text{売上高}} \times 100 \right]$$

正常に事業活動が行えているか、企業活動からどれだけ稼げているかの指標。

⇒ ここが高ければ、差別化できている会社。

目標数値 **粗利益率 × 10%**
理想数値 **粗利益率 × 20%**

$$\frac{G}{PQ} = \frac{MQ}{PQ} \times \frac{G}{MQ}$$

= 粗利益率 × 経営安全率

(単位：円)

科目	金額
売上高	1,000,000
売上原価	600,000
売上総利益	400,000
販管費	350,000
営業利益	50,000
営業外収益	3,000
営業外費用	1,000
経常利益	50,200
特別利益	0
特別損失	0
税引前当期純利益	50,200
法人税等	20,080
税引後当期純利益	30,120

経常利益の目標設定

税引後経常利益 + 減価償却費 = 借入金の元本返済額



(1 - 30%) × 経常利益 = 借入金の元本返済額 - 減価償却費
(実効税率)



目標経常利益 = (借入金の元本返済額 - 減価償却費) ÷ 0.7

⑤ 債務償還年数

$$= \text{金融機関借入金} \div (\text{税引後当期純利益} + \text{減価償却費})$$

※本来は（金融機関借入金－正常運転資金）で分子は求める。

あと何年で借金が返せるのか、
返済能力を示した指標。

⇒ 高い（長い）会社ほど、
自転車操業が続いてしまう会社。

一般的には「**10年**」以内なら銀行が
喜んでくる。「**20年**」以内なら銀行が
嫌々くる。

(単位：円)

【流動負債】	100,000
買掛金	80,000
短期借入金	20,000
【固定負債】	300,000
長期借入金	300,000
【負債合計】	400,000
資本金	10,000
利益剰余金	490,000
【純資産合計】	500,000
【負債・純資産合計】	900,000

(単位：円)

科目	金額
売上高	1,000,000
売上原価	500,000
売上総利益	500,000
販管費	400,000
減価償却費	50,000
営業利益	100,000
営業外収益	3,000
営業外費用	1,000
経常利益	102,000
特別利益	0
特別損失	50,000
税引前当期純利益	52,000
法人税等	20,800
税引後当期純利益	31,200